

2. 松本大学・松本大学松商短期大学部「キッズプログラミング教室」

総合経営学部総合経営学科 室谷 心

(1)活動計画

地域の小中学生を対象としたプログラミング教室を開催する。本取り組みは、教室の運営を通して、子供たちのプログラミングへの関心を高め、将来は本地域のソフトウェアやものづくりの分野で活躍する人材に育つことを期待するものである。

本学の施設および松本市や安曇野市の学習施設にて、本学学生が子供たちにプログラミングを教える「キッズプログラミング教室」を開催し、プログラミング知識の普及と情報教育の底辺の拡大を目指すとともに、教育活動を通じて学生自身のICT活用の向上を図る。

予定している教室の時期は次の通り。

「キッズプログラミング教室」

7月中旬 本学「ものづくりフェア」にて実施

「ヤングプログラミング教室」

7月中旬 本学「ものづくりフェア」にて実施

「親子プログラミング教室」

10月中旬、12月中旬 安曇野市交流学習センターにて実施

昨年度の実績では延べ6日間

その他、プログラミング関連イベント「Scratch Day 信州」への参加を予定。

各教室では10名～20名の参加者を募り、応募者数に応じて1日複数回実施する。また、教室の開催に合わせて様々なプログラム作品を展示し体験もできるブースを設け、来場者にプログラミングの魅力を伝える。

本申請の予算には、教室や体験ブースで使用する機材の準備に係る経費と消耗品費、教材開発に係る費用、活動に参加する学生へのアルバイト代金に係る費用が含まれる。学生には、当日の活動に加えて、教材の開発並びに機器の定期的なメンテナンス(アップデート作業)を依頼する。

(2)活動内容

新型コロナウイルス感染対策の一環で、ものづくりフェアが中止となりこのフェアで開校を予定していた「キッズプログラミング教室」は中止となった。

また、「スクラッチデイ in 信州」も2020年度は本学では行わなかった。

安曇野市教育委員会からの委託による「松大生と学ぶ親子プログラミング教室」は今年も延べ4日間開催した。10月31日(土)、11月1日(日)は三郷交流学習センター「ゆりのき」を会場とし、11月15日(日)、12月19日(土)安曇野市豊科交流学習センター「きぼう」を会場として開催した。この4日間の教室での利用に合わせて、利用パソコンの調整を学生が行った。



さらに、9月20日上田市マルチメディア館で開催されたScratch Day 信州 2020において、子供たちの鉄道プログラミングコンテストの表彰に参加しプレゼンテーションを行った。



(3)活動の成果

安曇野市での「松大生と学ぶ親子プログラミング教室」は新型コロナウイルス感染対策として、例年より人数

を制限したが、4日間で延べ80組の親子が参加し、Scratchを用いたプログラム作成の学習を行った。講座終了後のアンケートによれば、参加した児童の多くが、プログラミング教室に満足していた。

また、オリジナルの教材を作成して子供たちに教えることで、本学学生のプログラミングに対する理解も大いに深まった。

(4)共同活動者

小林俊一(総合経営学部)、矢野口 聡(松商短期大学 部経営情報学科)

(5)成果の公表(活動発表・論文執筆等)

本学ホームページ新着情報に随時報告・掲載した。

3. 学生カフェプロジェクト

(1)活動計画

学生カフェプロジェクトは、2015年に本学と上土町の街づくり協議会が連携して実施している学生が参画したまちづくり事業である。コミュニティの拠点である「カフェあげつち」を中心として地域の関係者と学生が協働してまちづくりに取り組む事業で、2019年度は11月末までに30回の学生カフェを実施している。観光ホスピタリティ学科の4つの専門研究・卒業研究の活動として26回に亘りカフェを拠点にまちづくりのイベントや活動を行った。さらに2018年度から始まった高大連携を支援する学生組織「ゆにまる」による学生カフェとして、2019年度は、デパートサミット事業のプロモーションや「デパートゆにまる」会場での出前カフェに向けた研修を目的とした学生カフェ、山賊焼きの普及をテーマにしたカフェなど合計で4回開催した。

以上に加えて2019年度からは、ゆにまるが支援した高大連携事業として南安曇農業高校の生徒による学生カフェを女鳥羽川の草刈り(春・秋)および市民祭にあわせて3回実施した。大学生と地域住民の連携が高校生まで拡大し、多年代によるまちづくりの取り組みとなっている。

以上の実績を踏まえて2020年度においても学生カ

総合経営学部観光ホスピタリティ学科 白戸 洋

フェの取り組みを実施する。本年度は、特に高大連携に力を注ぎ、高校生と大学生が連携した活動として展開する予定である。また、新たな動きとして地域課題研究の履修者を中心とした本学学生が、他大学や高校生を巻き込んだ新たな地域づくりの学習・実践を目指す活動を開始しており学生カフェへの参加はより拡がることが期待される。

一方で高齢化等を背景に地域の居場所や交流拠点としてのカフェの役割に注目が集まっており、その意味で本事業は地域のモデル事業とも位置づけられる。したがって、2020年度は、同様のニーズがある他地区への波及を促すため、試験的に駅西地区のいばらん亭等でも事業化を図りたい。

本事業は毎年の積み重ねによってより地域の受容と理解が進み、地域住民を巻き込んだより幅広いまちづくり活動に発展することが期待されるとともに、本学の象徴的な地域連携活動として進化することが期待される。なお上土における活動は、本学の広報媒体はもとより外部の様々な媒体によって情報の発信がなされている。

(2)活動内容

2020年度はコロナ禍によって活動の制約があった